

はと
鳩の峯
みね

NO.72
2025
4.1

令和7年4月1日



上田家役宅。講師の畠元氏と受講中の皆さん

目 次

二十歳のつどい	2P
還暦厄除け祈願	2P
連載その㉙	3P
新年の風物詩「おね火」	3P
防災研修に参加	3P
ふるさと応援寄付	4P
上田家見学・説明会	4P
eスポーツ体験会	4P
編集後記	4P

上田家建造物見学・説明会
2月22日(土)

高浜の歴史「新発見、再確認！」と銘打って見学、説明会が開催され多くの見学者で賑わいました。当日は畠元正司氏(建築士)松本博幸氏(学芸員)田中光徳氏(郷土史家)を講師にお呼びしました。現場は江戸時代に高浜村の庄屋を務めた上田家の役宅(役座)で庄屋7代目の上田源太夫宜珍(うえだけんじゆうよしうず)が知られています。明治時代には離座敷や表玄関、庭園、池、堀が新たに造られ現在に至っています。

祝二十歳のつどい

令和7年1月3日(金) 高浜地区コミュニティセンター



祝「還暦厄除け祈願」



まだまだと思っていた還暦を迎えるにあたり、はたして何名が参加してくれるのか心配しておりましたが、17名が集合場所に集まって、久しぶりの再会を喜びあいながら、高浜八幡宮にてお祓いと隣峰寺にてご供養をすませ、本渡の同窓会場へ向かい、恩師を交えて高浜ワインで乾杯後、高浜小時代の思い出話や部活動などの当時の会話を多く盛り上げてきました。最後に高浜小学校の校歌を参加者全員で合唱し、次回、開催地を決めて同窓会を終わる予定でしたが、会は次第に盛り上がり、計画に入っていた2次会、3次会へと同窓会は大盛況で終わることが出来ました。

京都府立大学 文学部 歴史学科 東 昇

端午の節句

端午の節句は、現在でも五月人形や鯉のぼりを飾る地域があります。高浜では約100年前、のぼりを立て、兜や人形・武器類を飾り、ヨモギや菖蒲を軒に挿し、ちまきを供えました。

医者の家では薬草を集めて薬を作つたといいます。幕末には、軒ごとにヨモギと菖蒲を挿し、神棚に神酒を供え神社へ参拝しました。男子のいる家ではのぼりを立てましたが、一般の村人は紙のぼりも珍しく、多くは立てませんでした。

天草の他の地域では習慣が異なります。下河内では、男子が生まれた年に木綿や紙のぼりを飾り「初節句」と称し、親戚を招いて祝い酒を振る舞いました。楠浦では、各家でちまきや赤飯を用意し、嫡男が生まれた家では「初轍」の祝いとして酒宴を開きました。男子が一歳頃までは各家でのぼりを立てたようです。節句なので村全体が休日となることもありました。が、田植えと重なるため休まない年もありました。

新年の風物詩「おね火」

1月5日(日)

於：天草中学校グラウンド

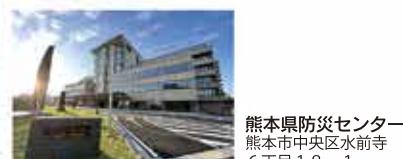
年おとこの方々による火入れ



今年も無病息災を願つて
恒例のおね火「鬼火がなまつたもの」が行なわれました。持ちよつた、門松、しめ縄などを燃やし無病息災を願つていました。一説によると、竹を煙にかざし、その竹で体をたたくことで「悪い所をたたくと病気が早く治る」と言い伝えられています。



防災センター1階の展示・学習室は、回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震記憶の回廊」における中核拠点の1つです。地域防災の担い手育成や、児童・生徒の防災学習の拠点として、展示パネルやプロジェクトマッピング、防災書籍等により、過去の大規模災害での経験から得た教訓や災害対応のノウハウを学ぶことができます。 HPより引用



熊本県防災センター
熊本市中央区水前寺
6丁目18-1



「できるしこ」の最大限を追求
平時にはそれぞれの立場でいかに備えるか。災害発生時の状況(家、学校、会社、自分の地位・役割)において最善の行動をとる学習等多くの事を学んでまいりました。

防災研修に参加!

2月6日(木)
熊本県防災センター

ふるさと応援寄付

高浜地区

(令和7年2月末現在)

人口 812人
男 388人
女 424人
世帯数 475戸

高齢化率(65歳以上)
(60.6%) 492人



根津 山崎 和也様(愛知県)
西岡 智彦様(東京都)
福井 大介様(兵庫県)
米田 友和様(千葉県)
山崎 光様(神奈川県)
後藤 真弓様(神奈川県)
上杉 尚様(神奈川県)
北村 康平様(東京都)
藤森 泰子様(長崎県)



国有文化財「上田家役宅」敷地内にある「安処(やすど)」



ガラス張り廊下・濡れ縁・庭園

上田家見学・説明会
表紙よりつづく
2月22日(土)



eスポーツ体験会
大好評開催
2月15日(土)
高浜コミセン

年々高まりをみせるeスポーツを
もつと知つてもらおうと開催しまし
た。握力の向上や転倒防止に好影響。
しかも注意機能改善にも役立つとあ
つて多くの町民が参加した、良い一日
でした。

編集後記

歯車、これを知っていますか？これは私が四、五十年前に天草町青年団協議会が発行していた文集です。五十年前の写真を見て誰が誰なのか若い人たちが写っている。あの頃は天草町も多く若者達が居て、活気があつたなあとか・・・楽しかった思い出がよみがえって来た。そして私もいつの間にか七十才を迎えるとして、人生は早いなあと感じる今日この頃である。



文集「歯車」十号編集実行委員